

令和7年度 航空宇宙に関する活動等報告書



©インターステラテクノロジズ株式会社

町が現在整備中の、Launch Complex 1（LC1）は、人工衛星の打上げに対応する小型ロケット用の射場です。LC1には組立棟、ロケットおよびペイロードに推進剤等を供給するタンクヤードなどがあります。竣工は2026年9月末予定となっています。

また、2025年6月、大樹町はインターステラテクノロジズ株式会社と、打上げに向けた基本合意書を締結しました。

北海道スペースポートを核とした宇宙版シリコンバレーの実現へ向け、取り組みを加速させます。



目次

1. 航空宇宙に関する出来事	1
2. 北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）	3
3. 講演・イベント	7
4. PR 活動	9
5. 銀河連邦	10
6. 日本宇宙少年団（YAC）大樹分団	11

1. 航空宇宙に関する出来事

■内閣府特命大臣（宇宙政策）賞の受賞

大樹町と SPACE COTAN 株式会社は、内閣府主催の第7回宇宙開発利用大賞において「内閣府特命担当大臣（宇宙政策）賞」を受賞しました。これは、内閣総理大臣賞に次ぐ賞となります。3月17日に行われた表彰式では、小野田大臣より表彰状を贈呈されました。

40年間に渡る、大樹町の宇宙のまちづくりに対する取組みが評価されたことに感謝し、今後もHOSPOを核とした「宇宙のまちづくり」を進め、より一層の宇宙開発利用の進展に貢献していきます。

また、表彰式前に行われたパネルディスカッションでは、黒川町長が、40年にわたる宇宙の取り組みについてや地域住民との協力関係、宇宙版シリコンバレーの実現に向けて熱く語りました。

【受賞のポイント（選考委員講評）】

長年にわたり地域・企業等が一体となって「宇宙のまちづくり」に取り組んでおり、ロケット射場の整備・打上げ、海外需要の取り込み、商業宇宙港の国際標準化に向けた取組、人材育成を進めるなど、多様な活動を積極的に実施しており、宇宙開発利用の促進、経済・社会発展、技術開発の貢献は高く評価できる。今後、我が国を代表する民間のロケット射場・宇宙港としての発展も期待できる。とのコメントがありました。



■宇宙航空課の新設

2025年4月1日付けで、大樹町役場に宇宙航空課が新設されました。2016年に企画商工課内に航空宇宙推進室が設置されていましたが、2024年に滑走路が300m延伸され全長1300mとなったことや、整備中のロケット射場LC1が2026年9月に竣工予定であるなど、宇宙に関する取組みが増加する見込みから、課として独立し体制が強化されました。



■宇宙なんちゃら こてつくん 歴舟川鯉のぼりミニイベントに登場

大樹町では、「宇宙のまちづくり」の取り組みを広くPRするため、大樹町宇宙応援アンバサダーに就任しTVアニメ「宇宙なんちゃら こてつくん」の主人公・こてつくんが5月5日に開かれたこどもの日ミニイベントに登場し、フォトブースにて撮影会を実施しました。

記念撮影には、町のマスコットキャラクターのコスピーも登場し、来場者にはクリアファイルのプレゼントが行われるなど、和やかな撮影会となりました。



■「たいき宇宙デー2025」

11月22日、町民宇宙イベント「たいき宇宙デー」を開催しました。

町が進めている「北海道スペースポート（HOSPO）」の整備状況や「宇宙のまちづくり」の理解促進を目的として、昨年に引き続き3回目の開催となり、約50名の方にご参加いただきました。

本イベントでは、ロケット射場「Launch Complex 1（LC1）」やインターステラテクノロジズ社が開発中の人工衛星搭載用ロケット「ZERO」の推進剤タンク試験用の構造試験棟等を見学し、滑走路においてスーパーカーによるフル加速体験を行いました。LP12では、本年度7月に台湾の打上げ事業者であるjtSPACE社により打上げられた「VP01」の射点と、LP12内に設置された物見台よりLC1を見学いただきました。普段見ることができない施設を見学していただき、現在の宇宙の取組みについて理解していただく機会となりました。



2. 北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）

北海道スペースポートは令和5年4月より指定管理者として SPACE COTAN 株式会社を選定し、同社による管理運営に移管しました。民間企業のノウハウを活かして、施設利用者の満足度向上を図ります。また、観光客や教育旅行、企業視察の受け入れを強化します。

（1）実験利用実績

令和7年度の大樹町多目的航空公園（JAXA 大樹実験場、IST ロケット射場（旧防衛省実験場）を含む）の利用実績を下表にまとめました。

今年度は、26 団体により 39 件の実験等が行われ、延べ 28,552 人が利用しました。

町では、実験や視察などによる宿泊や食事、レンタカー、航空運賃などの滞在に関わる費用を試算した結果、昨年度の約 12 億 1,000 万円から前年比約 331%の約 52 億 1,700 万円の経済効果があったものと推測しています。民間企業等による設備投資などが増えたことにより、推定経済効果が大幅増となっています。

年度	利用実績				推定経済効果
	利用団体数	利用件数	利用延べ人数	延利用日数 ※	
令和 7 年	26	39 件	28,552 人	391 日	約 52 億 1,700 万円
令和 6 年	22	43 件	23,317 人	492 日	約 12 億 1,000 万円
令和 5 年	20	42 件	23,167 人	597 日	約 12 億 4,700 万円
令和 4 年	19	45 件	20,283 人	664 日	約 5 億 7,900 万円
令和 3 年	16	30 件	12,635 人	315 日	約 3 億 5,900 万円
令和 2 年	9	16 件	7,855 人	188 日	約 2 億 9,400 万円

※延利用日数には、IST ロケット射場の利用日数は含まれておりません

（2）宇宙交流センターSORA 来場者数

宇宙交流センターSORA は、4 月 1 日から 11 月 30 日の間、毎日開館しました。

ガイドを常駐させ、来場者の満足度の向上を図ることができました。

今年度の来場者数は 10,877 人（うち、団体視察等 147 件 1,969 人）となりました。

年度	来場者数 ※視察人数含む	視察件数	視察人数
令和 7 年	10,877 人	147 件	1,969 人
令和 6 年	7,460 人	123 件	1,577 人
令和 5 年	7,155 人	69 件	2,327 人
令和 4 年	3,734 人	40 件	950 人
令和 3 年	880 人	15 件	404 人
令和 2 年	1,102 人	10 件	358 人

(3) 航空宇宙関連実験

■ 再使用型ロケット垂直離着陸実験

実施団体：本田技術研究所

実験期間：6月17日

実験内容：本田技術研究所は自社開発の再使用型ロケットの垂直離着陸実験に成功しました。

使用された実験機は全長約 6.3メートル、重さ約 900キログラム(Dry)で、垂直に打上げられ、最高高度 271.4メートルに到達した後、着地目標地点からわずか 37センチ以内に着地しました。飛行時間は約 56秒でした。

この実験では、ロケットを繰り返し使用する再使用型技術の実現に向けたもので、飛行中の姿勢制御や正確な着地といった要素技術の確認がされました。

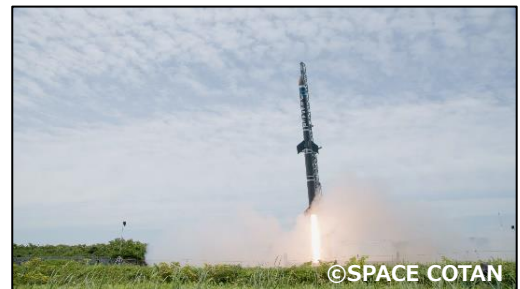


■ サブオービタルロケット打上げ実験

実施団体：jtSPACE 株式会社

実験期間：7月12日

実験内容：自社開発したサブオービタルロケット「VP01」の打上げ実験が行われました。実験の目的である、高度 100m の宇宙空間到達を目指しましたが、高度約 4 km に到達し 2 段目が切り離された後、機体は制御不能に陥り、途中で飛行停止となりました。目標高度到達とはなりませんでした。ランチャーやロケットシステム、2 段目の再点火などの機能については、検証が行われました。



■ 小型飛行ロボット自律飛行制御実験

実施団体：電気通信大学情報理工学部 田中研究室

実施期間：4月18日から5月7日、9月1日から9月25日

実験内容：田中研究室では、状況に応じてスマートな自律飛行を実現する無人航空機のシステム設計と制御に関する研究を行っており、その実証実験が行われ、予定通りの成果が得られました。



■ JAXA 大気球実験

実施団体：JAXA 大気球実験グループ

実施期間：5月20日から8月31日

実験内容：大気球実験が行われ、無事実験は終了し、海上に着水した大気球は、大樹町の漁業者のみなさんの協力を得て回収されました。

今年度実施されたのは、改良型クライオサンプラー性能実証試験、高精度変位計測装置の実証 4、レーザー周波数比較

による一般相対論の高精度検証に向けた基礎実験(Ⅲ-1)、レーザー周波数比較による一般相対論の高精度検証に向けた基礎実験(Ⅲ-2)、ゴム気球を利用した剛体薄殻型大気突入カプセルの飛行試験、ゴム気球を利用した柔軟フレア型大気突入カプセルの飛行試験となり、全ての実験が無事に終了しました。

しかしながら、B25-02 実験（気球 VLBI 実験）に関しては、高層風等の気象条件が気球飛翔に適合する機会を得られず今後も実験期間中に得られる見込みがなくなったため、今年度の実施が見送りとなりました。



■ 人力飛行機のテストフライト実験

実施団体：北海道大学人力飛行機製作サークル

実施期間：6月28日から6月29日

実験内容：同サークルにより製作された機体の動作確認、組み立て・運用訓練が行われました。主に、操舵試験、回転試験、転がし試験、滑走試験が行われ、機体の性能について、様々な検証が行われました。



■ 小型超音速飛行実験機関連実験

実施団体：室蘭工業大学

実施期間：12月2日から12月9日

実験内容：室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターで研究・開発中の小型超音速飛行実験機「オオワシ」の空力特性把握のため、1/3 スケール縮小機体の車載走行試験が実施されました。

本試験では、小型超音速実験機「オオワシ」のロール

各速度及びエルロン操舵による空力変化を明らかにするため、1/3 スケール縮小機体にロール角速度及びエルロン操舵を与えながら走行し、機体にはたらく空気力を計測しました。

今回の実験で得た情報を基に来年も車載走行試験が実施されます。



■ハイブリッドロケット打上実験

実施機関：東海大学学生プロジェクト

実験期間：3月8日～3月11日

実験内容：東海大学の学生ロケットプロジェクトが、美成地区にてハイブリッドロケットの打上げ実験を行いました。東海大学は、2004年から大樹町で実験を行っており、今回で31機目のロケット打上げとなりました。打上げは成功し、高度156.6mまで達しその後、パラシュートを開傘させ機体を回収しました。



今回の実験では、打上げた機体を損傷なく回収するためのパラシュートの形状を十角形としたことによる機能の実証が主な目的でしたが、設計通りの機能は確認できませんでした。

今後は実験で得られたデータを基に最終目標である高度100km以上に向けて開発が進められます。

■ハイブリッドロケット打上実験

実施機関：室蘭工業大学学生プロジェクト

実験期間：3月14日～3月15日

実験内容：室蘭工業大学の学生ロケットプロジェクトSARDが、美成地区にてハイブリッドロケットの打上げ実験を行いました。

本実験は、自作エンジンの実証と飛行時の燃焼圧力などのデータ取得、高度600m到達を主な目的として実施しました。



打上げは成功し、高度は712mに到達し、射点から南東185mに落下しました。

実験の結果、各機能は設計通りに機能することを確認し、目標高度に到達しました。

3. 講演会・イベント

■企業版ふるさと納税寄附金 感謝状贈呈式開催

【第7回】

5月23日、大樹町宇宙交流センターSORAにて、大樹町に対して令和6年5月から令和7年3月までに企業版ふるさと納税の寄附をいただいた企業を対象として、感謝状の贈呈式を開催いたしました。

当日は感謝状の贈呈に加え、各企業様から北海道スペースポート整備に対する応援コメントをいただいたほか、全体写真撮影を実施しました。また、ロケット射場LC1の見学会を実施しました。

参加企業は次のとおりです。（順不同）

＜東京建物株式会社、株式会社日本旅行、株式会社カナモト、北王コンサルタント株式会社、株式会社旭商工社、UDトラック道東株式会社、池田煖房工業株式会社、SMFL レンタル株式会社、ワコオ工業株式会社、株式会社商船三井、ユタカサービスグループ（豊栄ビル株式会社）、川田工業株式会社、株式会社カルテック、株式会社奥原商会、株式会社キグチテクニクス、三洋興熱株式会社、株式会社ユシロ、サツイー工機株式会社、株式会社ズコーシャ、株式会社日本旅行北海道、株式会社共成レンテム、SOC 株式会社、株式会社テクノウェル、株式会社 NC ネットワークファクトリー、HIREC 株式会社、株式会社サンケミ、NEC ネットアイ株式会社、株式会社栗林商会、株式会社セイコーマート、ゼネラルヒートポンプ工業株式会社、アツミ工業株式会社、マナデザイン株式会社、Iecube 株式会社、株式会社本間解体工業、エム・エス・ケー農業機械株式会社、日本生命保険相互会社、他一社＞

なお、当日の参加が叶わず、後日の贈呈となった企業は下記のとおりとなります。（順不同）

＜三伸工業株式会社、株式会社オーサカステンレス、株式会社 GuGu、ホクレン農業協同組合連合会、株式会社 IHI エアロスペース、株式会社柳月、株式会社グリーンオニオン、ライボルト株式会社、株式会社クロスドリーム、株式会社ゼロアクセル、プランプラン株式会社、FX の窓口合同会社、株式会社 ALTILAN、他一社＞



■大樹エアロスペーススクール 2025

本プログラムは、JAXA との共催で行われ、十勝管内の宇宙・農業関連企業から講師を招き、講義や実習を通して宇宙に触れてもらうことを目的として開催されました。

北海道スペースポート（HOSPO）を会場として、8月5日から8日の4日間、様々な活動を実施しました。

全国から参加した高校生20名は、宇宙交流センターSORAで開校式を行った後、町内の航空宇宙関連施設の見学、モデルロケットの打上げ実験、SPACE COTAN、十勝農業協同組合連合会及びインターステラテクノ

ロジズの講義、エム・エス・ケー農業機械によるロボット農機乗車体験、ズコーシャによるドローン操縦体験等、大樹・十勝ならではのプログラムを学習しました。



■ 北海道宇宙サミット 2025

10月9日・10日、帯広市にて「北海道宇宙サミット 2025」を開催しました。

5回目となる今年は、「北海道は挑戦の舞台。宇宙を描こう。」をメインテーマに、初めて2日間に及ぶ開催となりました。プログラムは、ロケット事業や海外宇宙港の動向をはじめ、宇宙人材の育成や産業の将来性など多種多様な講演やトークセッションが行われました。

「高校生が語る宇宙産業の学びと発見」のトークセッションでは、大樹高校の生徒3名が登場し、宇宙ボランティアサークルの活動について発表しました。

会場では、宇宙産業に取り組む企業や大学、スタートアップ企業によるPRブースや企業同士の数多くの交流・意見交換が行われました。

参加者は現地・オンラインを含む3,950名となり、非常に注目度の高いイベントとなりました。



■ ほっかいどう応援セミナー

10月7日、大阪府で開催された「ほっかいどう応援セミナー」に参加しました。

ほっかいどう応援セミナーは、関西の企業へ、知事や市町村長が地域の魅力の発信や応援を求める場として北海道庁が開催しているものです。

黒川町長は、大樹町の宇宙のまちづくりについて説明し、現在建設中のロケット射場「Launch Complex 1 (LC1)」へ企業版ふるさと納税の寄附を呼びかけました。また、ブースでは町の特産品の大樹漁業組合の鮭とばを提供し、食や観光などの町の魅力もPRしました。



4. PR 活動

大樹町や北海道の航空宇宙に関する取り組みを PR するため、道内外の航空宇宙関係の展示会やイベントに出展しました。北海道宇宙科学技術創成センター「HASTIC」や SPACE COTAN(株)、北海道等と共同で出展し、パネルやポスター、実験機材等の展示、映像放映、パンフレット等の資料配布を行いました。

■北洋銀行「ものづくりサステナフェア 2025」

展示会場：アクセスサッポロ（札幌市）

開催期間：7月23日

来場者数：約4,600人

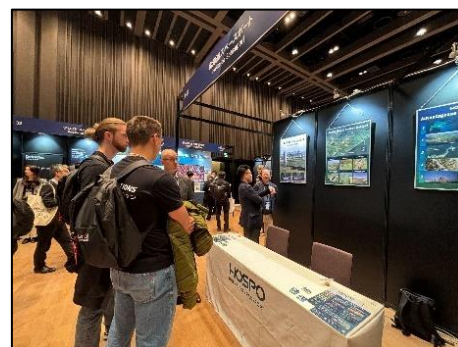


■NIHONBASHI SPACE WEEK 2025

展示会場：日本橋三井ホール（東京都）

開催期間：10月28日から30日

来場者数：約8,000人



■ビジネス EXPO

展示会場：アクセス札幌（札幌市）

開催期間：11月6日から7日

来場者数：21,632人



■国際産業宇宙展（ISIEEX2026）

展示会場：東京ビッグサイト（東京都）

開催期間：1月28日から30日

来場者数：26,338人



5. 銀河連邦

銀河連邦は、JAXA の研究施設が縁で交流を始めた 5 市 2 町がユーモアとパロディの精神で組織する連邦国家です。銀河連邦では、子どもたちの留学交流事業をはじめ、経済交流、銀河連邦フォーラムの開催などを通じて友好を深めているほか、災害時の相互応援協定を締結しています。

■ 第 52 回相模原市民桜まつり

4 月 5 日、6 日に神奈川県相模原市で開催された「第 52 回相模原市民桜まつり 銀河連邦物産展」に銀河連邦タイキ共和国として出展しました。

町内業者のまるみ工房と和牛道の 2 店舗が出展したほか、大樹漁業組合のスモークサーモンと干しししゃもを販売しました。ブース前にはたくさんのお客様が溢れており、大変好評でした。

また、まつり当日は各銀河連邦共和国のお国自慢やパレードなどのイベントの他、飲食などの露店、企業や各団体のブースが設けられ、満開の桜に多くの人で賑わいました。



■ 地方創成 SDGs フェス（大阪万博）

5 月 28 日、29 日大阪・関西万博に銀河連邦としてブース運営に参加しました。

月面探索マイクラフトゲーム体験や、JAXA 講師によるミニ講演会などのイベントのほか、大樹町の宇宙のまちづくりや、銀河連邦の繋がりを来場者へ説明しました。来場者は、2 日間で 20 万人を超え、ブースにはたくさんの方が足を運んでくれました。



■ 第 49 回柏林公園まつり

9 月 21 日、大樹町にて開催された柏林公園まつりで銀河連邦物産展を開催しました。9 月 20 日からの大雨の影響で、会場を急遽生涯学習センターに変更しての開催となりましたが、多くの方にお越しいただき、会場は終始賑わいました。

普段、大樹町内では購入することができないサガミハラ共和国、ノシロ共和国、サンリクオオフナト共和国、サク共和国、カクダ共和国、ウチノウラキモツキ共和国の 6 共和国の特産品を販売しました。



■ 銀河連邦フォーラム

7月7日、8日に鹿児島県肝付町で開催された「銀河連邦フォーラム」に参加しました。

フォーラムでは、各共和国との情報交換のほか、千葉工業大学和田教授の講話を聴講しました。

また、IHIスペースポート内之浦一般観覧所では抽選会やお国自慢をしました。その後イプシロン管制センターへ移動し、観測ロケットS-310-46号機の打上げ見学をしましたが、条件が揃わず、打上げが叶いませんでした。



6. 日本宇宙少年団 (YAC) 大樹分団

■ 総会、分団活動

5月24日に宇宙少年団 (YAC) 大樹分団総会を大樹町役場にて行いました。

総会では、新団員の紹介、前年度の事業報告と決算報告、今年度の予算案と活動計画について議論しました。また、分団活動として「探査船外活動ユニット (ペーパークラフト)」を実施しました。分団活動終了後には、分団員懇親会として、バーベキューを行いました。



■ ペットボトルロケット製作教室

7月22日に大樹町福祉センターでペットボトルロケット製作教室を開催しました。

町内外から18名の参加者が集まり、8月4日に行われるペットボトルロケットコンテストに向けて、ロケットを製作しました。

参加した子どもたちはお父さんお母さんと協力しながら、オリジナルのペットボトルロケットを完成させました。



■ 第25回ペットボトルロケットコンテスト in 大樹

8月3日に行われた「歴舟川清流まつり」のイベントとして「第25回ペットボトルコンテスト in 大樹」が開催されました。

今年は規定の部19名・自由の部9名の計28名が出場し、参加者はこの日のために作成した機体で飛距離を競い合い、子供から大人まで白熱した戦いを繰り広げました。

規定の部では、84.12mを記録した河口 友哉さん、自由の部では、株式会社 構造計画研究所ホールディングスが336.28mの歴代最高記録で優勝しました。



デザインコンテストでは、個性豊かな機体が出揃い、堀尾 宗平さんが最優秀賞に輝きました。

■ 研修旅行 in 旭川市

11月8日から9日、研修旅行として団員13人、保護者3人、幼児1名、引率1人の計18人で旭川市を訪れました。

科学館サイバルに行き、宇宙・科学についての体験ブースや展示などに、子ども達は終始笑いが絶えず、楽しんでいました。

その後、宿泊先のホテルへ移動し、ロビーの共用スペースで、各々ボードゲームをやお絵描き、パズルなどをして、普段会う機会が少ない団員同士で積極的に交流をしていました。



■ スペースイラストコンテスト表彰式

9月21日、柏林公園まつりステージ上で「2025 ペースイラストコンテスト」の表彰式を行いました。

今回は、156の応募の中から、入選された10名全員が出席され、日本宇宙少年団大樹分団長 斉藤 雅 氏から、表彰状・副賞・作品写真が贈呈されました。



■ 分団活動「スカイウイング製作・プラネタリウム見学」

12月20日に帯広市児童会館でスカイウイング製作とプラネタリウムの見学をしました。

スカイウイング製作では、帯広市児童会館の職員が講師となり、製作と観察を行いました。

プラネタリウム見学では、帯広市の夜空から見える冬の大三角について学びました。



■ 分団活動「エアロケット製作・打上げ」

1月24日、大樹高校の「大樹宇宙ボランティアサークル」が、日本宇宙少年団大樹分団の活動で「エアロケット製作及び打上げ」を指導していただきました。

生徒は、事前にエアロケットの作り方や仕組みを学び、宇宙少年団大樹分団員6名へ紙で作るモデルロケットの作り方から打上げの支援まで担いました。



発 行：大樹町役場宇宙航空課
所在地：北海道広尾郡大樹町東本通 33 番地